

前田道路(株)に就職して

吉岡 勝則

(昭和57年土木科卒)

早いもので秋田工業高等学校を卒業して約40年が経ちました。

現在の私が今あるのも高校3年生の進路指導の一コマが人生の岐路として思い出されます。当時担任の長谷山先生と土木科長の安藤先生から、進学か就職か県内か県外か、ゼネコンか専門工事業かと希望を聞かれました。母子家庭だったのもあって早く就職したい気持ちがあり県内の就職を考えていたのですが、母が県外でもいいと言ってくれたことや子供の頃に家の前の道路を舗装している光景を記憶していて、舗装の仕事をしてみたいと思っていました。

その気持ちを伝えると、安藤先生は即座に「前田道路に行きなさい」と言ってくださいました。今となってはどうして前田道路を勧めてくださったのか知るよしもありませんが、あの時に別の選択をしていたらどんな人生になっていたのでしょうか。

前田道路という会社

道路建設を中心に土木工事の施工を手がけているとともに、舗装材料であるアスファルト合材の製造販売も行っています。合材工場では舗装廃材などを受け入れて中間処理を行う再生業も行っており、公共工事の他に民間の庭先舗装から駐車場舗装など広く社会のインフラ整備に貢献している会社です。

現在では道路舗装業界で第2位の売上高がありますが、いわゆる大型プロジェクトは多くなく、地元の会社などからいただく小型工事が大きなウエイトを占めます。秋田市には営業所が、由利本荘市にはアスファルト合材の製造工場があり、秋田県内の多くの建設業者と関わりを持たせていただいています。

私が入社してから10年ほどは秋田工業高等学校の後輩が入社していたのですが、高卒の募集をしない時期があり、母校出身者が途絶えていました。しかし、数年前から高卒採用が復活しました。

私の仕事

入社して初めて配属されたのは、福島県いわき市の小名浜作業所でした。現場は損保会社のビルの外構工事です。右も左も分からない状態で現場に出されて心細い思いをしたことは40年経った今でも覚えています。その後、福島市の建設省(当時)発注の元請現場で数名いる現場員の一人として土木の基礎を学びました。

福島県で5年ほど土木技術者として勤務した後、自らの希望で品質管理・試験技術者へ職務転換をしてもらいました。

千葉県に異動になり、アスファルト合材の配合試験や品質管理などを主に行いました。それから月日は流れて、平成8年建設業界にISOのブームが訪れました。当社でもISOの認証を取得することになり、プロジェクトチームの一員になりました。始めは東京支店で認証取得に従事し、北関東支店、東北支店に異動、平成25年から本店でISO事務局を努めています。



高校時代

ISOについて

当社で認証取得しているのは、9001(品質)、14001(環境)及び45001(労働安全衛生)です。ISOは国際標準化機構が発行する規格でこの規格に適合しているか、初回審査の後、毎年サーベイランス、3年ごとに再認証審査を受けて適合性を維持していきます。

最後に

新入社員研修の講師を務めることがあり、秋田工業高等学校出身の社員がいると感慨深いものがあります。厳しいこともあります。やりがいのある良い会社ですので、どうか長く勤めていただきたいと思います。定年が延長されてまだ数年この会社にいます。

秋田工業高等学校出身者の活躍を願っていますので相談ごとがありましたら微力ですが力になりたいと思っています。また、県外に就職したこと、家族が秋田から転出したこともあって、秋田に戻ることが少なくなり、同窓生との交流がほとんどなかったのですが、平成29年に土木科卒24名(在校時43名)が参加して初めての同窓会が行われました。卒業後会っていない人がほとんどで非常に懐かしく思いました。



タイ旅行にて

秋田工業高校卒2021年4月入社員のコメント

佐藤 和希 私は多くの資格を取ることを目指します。高校の頃、資格の勉強を怠り乙種4類を取れなかったのが、まずはそれを目指して勉強を頑張ります。

江畑 晴登 新入社員研修を体験して改めて挨拶や礼儀の正しさを学び、先輩や上司に挨拶や礼儀を意識するようになりました。

川崎 恭央 上司の方や下請けの方から、「またこの人に仕事を任せたい」と思っていただけのような社員になることです。

西根 凌功 私が前田道路に入社を決めた理由は、全国の道路を舗装してみたかったからです。工業高校で土木を学び、道路舗装に興味を持ち先輩も多数在籍しているので前田道路に入社を決めました。